



特集

普及センターだより

若い仲間が、みんなで、一緒に

山城地域では161名の青年が農業に従事しています。多くは、青年組織や生産部会に属し、親睦を深めるとともに、技術の向上や経営改善に取り組んでいます。また、地域住民との交流活動の幅を広げています。



▲茶の挿し木作業を終え「ホッ」と一息のクラブ員

特徴ある茶づくりにチャレンジ

田山杉ノ木会(南山城村)

「田山杉ノ木会」は、南山城村の茶生産者の後継者9名で組織している農業青年クラブです。

この会は、「村活き生き祭り」への参画、クラブ員の親睦・交流による地域発展と茶に関する研修会などによる技術向上を目的に活動しています。

昨年は、今地域で問題になっている「ミカント

ゲコナジラミの確実な防除」についてプロジェクト研究を行い、近畿地域農村青少年会議においてその成果を発表しました。今年度から、特徴ある茶の生産拡大を目的に、京都府育成新品種の秋挿し育苗に挑戦しています。冬を迎えるまでに発根させるため、かん水と保温に注意して、クラブ員全員で管理します。

今後もクラブの活動を通じて、地域の発展、茶業の振興につなげていきたいと考えています。

生産技術

伏見トウガラシにおけるタバココナジラミ防除対策

管内の伏見トウガラシ栽培ではタバココナジラミの防除対策に努めています。多発するとスス病の発生、果実の退色、樹勢衰弱などの被害が出ます。

普及センターでは平成19～20年度に、加温越冬ロックウール栽培のハウスにおいて、栽培終了後の清掃、ハウス内外の除草、開口部のネット展張、黄色粘着テープの設置等の耕種的防除等の基本的な対策を実施したうえで、微生物農薬を用いた防除試験を実施しました。

これらの対策により、栽培期間中はタバココナジラミをほぼ少発生に推移させることができました。

発生予察用の粘着トラップの捕殺数を基準にした農薬散布のタイミングは次のとおりです。

1 微生物農薬の散布

粘着トラップの捕殺数が1～2匹/週なら、総使用回数に制限のないポタニガードES等の微生物農薬を定期的に散布する。

2 化学農薬の散布

粘着トラップの捕殺数が5～6匹/週に増加すると、タバココナジラミの密度が高くなるので、直ちに適用のある化学農薬を散布する。

登録農薬の少ない伏見トウガラシの場合、タバココナジラミを多発させてしまうと防除がとても難しくなります。黄色粘着テープの設置等、耕種的な防除対策をしっかりと行ったうえで、タバココナジラミの発生数の少ない間に、こまめに防除していくことが被害を抑えるうえで大切です。

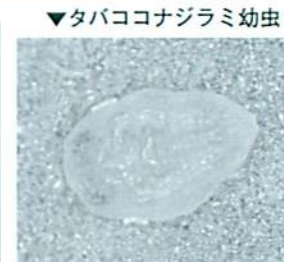


◀出入り口付近の粘着トラップ(10cm×26cm)で飛び込みをチェック



▲タバココナジラミ成虫

写真提供：京都府病害虫防除所



▼タバココナジラミ幼虫

写真提供：京都府病害虫防除所



高品質茶産地を大きくPR

～関西・全国茶品評会審査結果～

平成21年8月4日から6日にかけて開催された第62回関西茶品評会(開催地：兵庫県)及び同8月25日から28日にかけて開催された第63回全国茶品評会(開催地：埼玉県)において、山城地域から出品された茶が、別表のとおり、農林水産大臣賞・産地賞を受賞し、生産農家の卓越した高い技術と高品質な宇治茶産地をあらためて大きくPRできました。入賞された皆様、おめでとうございます(敬称略)。

☆関西茶品評会成績

★農林水産大臣賞

かぶせ茶	下岡京子(宇治田原町)
玉露	出島豊清(京田辺市)
てん茶	(農)宇治川碾茶組合 山崎省吾(宇治市)

★産地賞受賞市町

玉露	京田辺市
てん茶	宇治市

☆全国茶品評会成績

★農林水産大臣賞

てん茶	菊岡祐一(城陽市)
-----	-----------

★産地賞受賞市町

てん茶	宇治市
-----	-----

● 自信にあふれた農産物を供給

久御山町農業後継者会議



▲久御山町の野菜を使った試食会



▲地元久御山町の野菜



▲地元野菜を使った料理

久御山町農業後継者会議は、新しい農業を創造し、地域農業の振興に寄与することを目的に、町内の農業後継者約80名が組織する団体です。会員の経営品目は野菜、花き、水稻など多岐にわたっています。

毎年研修会や先進地視察などを行い、農業知識を高め、会員相互の親睦を深めています。また、「ふるさとフェア久御山」にも参加し、消費者に久御山町農業のPRをしています。

昨年は、京都市内のホテルで会員の生産した野菜を用いた「久御山町の野菜を使った試食会」を開催しました。「淀大根のクリームスープ」など、地場野菜のおいしさを生かした味わいに会員は大いに自信を持ちました。

今後もこのような取組を通じて、久御山町農業の発展に向けて、頑張っていきます。

● 農業に若者のネットワークを生かしたい

南京都農業青年クラブ

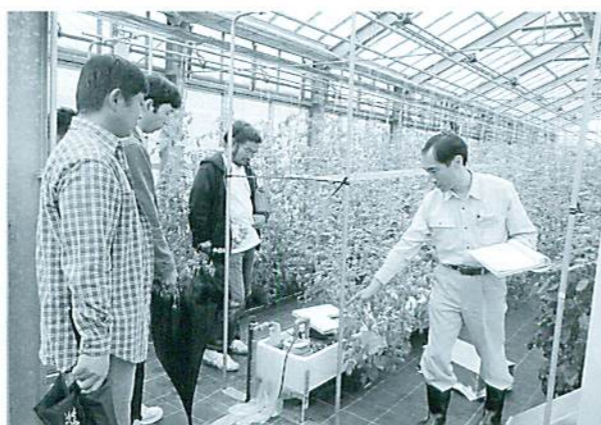
南京都農業青年クラブ（会員15名）は、綴喜地方の農業青年の仲間づくりと農業経営の向上を図ることを主な目的に、加入時の年齢が概ね30歳までの青年で組織されています。

通称「いまいち会」と親しみを込めて呼ばれていますが、「イケメン」ばかりの会員が野菜をはじめ茶から花まで多様な経営を展開しています。

クラブでは、普及センターと連携して農業の勉強会や視察研修を定期的に行っており、多様な経営品目を活かして会員独自で培ってきたノウハウや同業間では得がたい情報をお互いに交換しています。

今後はもう一歩進んで、多様な経営品目と若

者のネットワークを活かして消費者との交流や直売等の取組も研究していきたいと考えています。



▲視察研修でトマトの水耕栽培を熱心に学ぶクラブ員

● 宇治茶を支える若い力

和束4Hクラブ（和束町）



▲本年のお茶の出来ばえを自らチェック

クラブ員数は、和束のお茶に魅力を感じ、茶農家を目指す町外の青年も含めて20名で、茶品質の向上による経営改善の研究や親睦を活動の目的としています。新品種の苗作り、土壌分析による施肥改善、茶園土壌の改良資材施用効果試験等のプロジェクト活動や、クラブ員自らが茶審査をする一・二番茶反省会も行っています。

また、会員相互の親睦・交流を図るため、恒例の夏季キャンプをはじめ、お見合いツアーへの参加、「グリーンフェスタ in わづか」「和束茶祭り」「府農林水産フェスティバル」での和束茶の宣伝販売等活発な取組も展開しています。

● 楽しく元気に活動、YACの仲間

八幡市農業青年クラブ(YAC)



▲野菜販売の準備に忙しいクラブ員

▲会長の安田さん

YACの今年度の会長は、八幡市内里の安田新吾さんです。YACの活動について、安田さんにお聞きしました。

「会員は現在71名で、農産物品評会、視察研修、地域のイベントでの農産物販売が主な活動です。これらの活動は、農業に従事している年齢の近い者同士が集まる絶好の機会となり、わいわいといろんな話ができるので、みんな楽しみにしています。」と楽しい様子を話されました。

YACの活動が会員同士の交流、情報交換の場となり、それぞれの農業経営にも役立っています。

【ターンの紹介

はじめまして 私達頑張っています

ナス栽培に挑戦

小林 喜春さん(京田辺市)

今春、京田辺市で特産ナスの栽培を中心に就農されました。

就農のきっかけは、定年後の第二の人生を模索中に、子どもの頃「収穫の喜び」を教えてくれた農業がやりたいと思い立ち、「やましろ地域熟年営農チャレンジ塾」に参加されたことです。

就農当初は不安も多かったのですが、地元の篤農家さんの温かい御支援や関係機関の指導により、今では農作業の手順や意味も概ね理解でき、自分の技術や考えが収量や品質に反映される農業の面白さを実感しながら、毎日やりがいをもってナス畑に通っておられます。

今後は、ナスだけでなく施設野菜にも挑戦し、年間の栽培体系を確立し、農業ライフを通じて仲間を増やし、健康で明るいゆとりある人生を過ごしていきたいと話されています。



レストランと コラボを目指したい

藤尾 平さん・泰恵さん(和束町)



▲収穫を終えナスの箱詰め作業を行う夫妻

藤尾平さんは、一昨年まで、兵庫県尼崎市で会社に勤務されていましたが、二人とも農業に関心が高く、知り合いがあり農地を確保しやすい和束町にいられました。元指導農業士さんや親戚、先輩の新規就農者から支援を受け、農地を借りることができ、農家になれました。現在は、花菜、エビイモ、ナス、水稻を栽培し、JAを中心に出荷していますが、スーパーやお友達にも直接販売するなど、販売先の確保にも頑張っておられます。家族で楽しい農業を目指し、将来は野菜を中心に多品目少量生産でレストラン等とコラボを実現したいと夢を語っておられます。